MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２２．１２．１　発行元
第 422 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

鮎川哲也の代表作

鮎川哲也の代表作。私が考える日本ミステリの最高峰の作品ということだ。これまでもこの『ミステリ読書案内』で何度か取り上げてきたように３作を選ぶことは難しいことではない。若者に読んでほしい作品だ。

50年近く前に立ち返って

西村京太郎や赤川次郎の作品はごく最近も読んでいる。それに対して鮎川哲也の作品は４０数年前にほとんど全てを読んでしまったので、遠く離れてしまったなぁと思うこともある。チャンドラーやウールリッチは折に触れて読み直すこともあるが、久しぶりに立風書房の『鮎川哲也長編推理小説全集』を手に取ってみることにする。

図書館の開架書棚には鮎川哲也作品はほとんど置かれなくなってしまった。『大活字本』には少し入っているけれども…。ミステリを学び始めた若者に是非読んでもらいたい作品なのに。少しずつ時代が過ぎていくことを実感する。

代表作３作。『黒いトランク』と『リラ荘殺人事件』は直ぐに決まった。もうひとつは『鍵孔のない扉』にしようと考えたのだが、本棚の中のカッパノベルスが簡単に出てこないのだ。狭い場所に二重三重に詰めてあるので探すのは大変。１９６９年の比較的新しい作品なので、全集には収録されていない。ということで、結局『ペトロフ事件』にした。『憎悪の化石』や『黒い白鳥』でも良かったのだけれども。長編はいずれも読みごたえがある。

NO.3 『ペトロフ事件』

単行本になって出たのは１９６０年。光風社。ただ元になったのは１９５０年の『別冊宝石』に掲載されたもので、当時はまだ無名の新人・中川透名義だった。『黒いトランク』よりずっと前の作品ということになる。鮎川哲也は大戦中、小学三年の時に父親の仕事の関係で満州に渡っており、その時の体験が本作品を書くきっかけになっている。

満鉄・旅順線の大連の隣にある夏河家子駅の近くの白系ロシア人・ペトロフさんの家で殺人事件が起こり、鬼貫警部が出動するところから話は始まる。早速に当時の満州鉄道の時刻表が取り上げられて関係者のアリバイが吟味されていく。その意味では鮎川の原点ともいうべき作品である。

NO.1『黒いトランク』

１９５６年講談社。当時の『書き下し長編探偵小説全集』の第１３巻に採用された。鮎川の著書としては最初の本。私は角川文庫版で読んだ記憶があるが、今手元に残してあるのは立風書房の全集と『別冊幻影城・鮎川哲也集』の２種類。私は本作品を日本ミステリの第一に上げている。緻密な組み立てと、鬼貫警部の執拗な捜査が、ミステリを読み始めたばかりの私に強烈な印象を残した。

１９４９年１２月。事件は東京・汐留駅の構内から始まる。引き取り手が来ない黒いトランクから異臭が発生。不審に思った駅員が警官の見守る中でトランクを開けてみると中から死体が。トランクの送り主は九州・若松市に住む近松千鶴夫という人物で、被害者は同じく九州・柳河の馬場番太郎と判明した。鬼貫警部は千鶴夫の妻・由美子からの依頼を受けて捜査に加わって行く。関係箇所を示す地図。そして時刻表、トランクＸとＺの移動表、関係者のアリバイ一覧と提示され、事件の細部が徹底的に検証されていく。クロフツの名作『樽』がよく引き合いに出されるが、『樽』よりも更に堅牢な作りになっている。「時刻表」を使ってのアリバイ崩しは日本ミステリの特徴と言える。鮎川哲也の良さが存分に発揮された古典的価値を持つ作品である。

No.2『リラ荘殺人事件』

１９５８年光風社。雑誌『探偵実話』に連載されたもの。元は『りら荘事件』の題名だったが、私は角川文庫版で読んだので『リラ荘殺人事件』と表記してしまう。著書で言うと長編第二作になる。こちらの探偵は星影龍三である。「館もの」のひとつと見ることもできる。

「りら荘」は荒川の上流部秩父の山中にある。元は「ライラック荘」という名前である会社社長の持ち物だったがものを日本芸術大学が買い取り学生のレクレーション施設にしたもの。ある年の８月。７人の学生が宿泊にやってくる。美術学部と音楽学部の学生たち。一番目に付く名前は「尼リリス」。声楽科のソプラノ。もちろん本名ではなく、芸名である。彼女の言動がこの後の動きに大きく関わっていく。一夜明けて次の日の朝、警官がりら荘を訪ねてくる。近くの川岸で地元の炭焼きの男が崖を踏み外して亡くなったという。その男はりら荘に盗みに入り、尼リリスのレインコートを失敬して雨よけに使っていたらしい。傍にはスペードＡのカードが落ちていた。昨晩トランプをしようとして無くなっていたことに気付いたものの一枚だった。この後、連続殺人事件に発展するのだが、トランプのカードが巧みに使われている。さて、生き残るのは……。